

当院における SARS-CoV2 検査の現状報告

◎太田 基博¹⁾、森川 千織¹⁾、春山 薫¹⁾、田中 郁也¹⁾、木村 邦子¹⁾、川淵 靖司¹⁾
独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院¹⁾

【はじめに】当院では院内感染対策として COVID-19RNA 検査を令和 2 年 4 月より LAMP (Loop-Mediated Isothermal Amplification) 法で開始した。その後、5 月より イムノクロマト法による抗原検査、6 月より RT-PCR (Reverse Transcription Polymerase ChainReaction) を導入した。さらに全自動 RNA 抽出装置 (Promega 社) の Maxwell RSC Instrument を導入し検出感度の向上を実現した。また、令和 3 年 2 月よりワクチン接種前後に IgG 型の抗体検査も実施し、同年 4 月より変異株の検査も実施した。それぞれについて報告する。

【対象】令和 2 年 4 月から令和 3 年 11 月までに当院で実施した PCR 検査を対象とし、検査数、年齢、PCR の結果、変異株検査の結果等について集計を行った。検体は全て鼻咽頭ぬぐい液を使用した。

【結果】令和 2 年 4 月 18 日から令和 3 年 11 月 10 日までで COVID-19RNA 検査を 40,000 件、抗原検査を 9,500 件実施した。COVID-19RNA 検査の陽性率は 1.21%、抗原の陽性率は 0.65%であった。陽性者の男女比は男が 56.11%、女

が 43.89%、年齢別の比率は 10 代が 7.8%、20 代が 18.1%、30 代が 11.7%、40 代が 15.0%、50 代が 13.1%、60 代が 12.5%、70 代以上が 21.8%であった。Ct 値は 12.06 (3 億 1,080 万コピー) から 40.13 (2.5 コピー) であった。変異株においては 177 例中、174 例が陽性で N501Y が 120 例 (69.0%)、E484K が 2 例 (1.1%)、L452R が 52 例 (29.9%) であった。抗原検査と COVID-19RNA 検査が同時に提出された 9,249 件において抗原検査陰性で RT-PCR 法が陽性となったものを 28 例 (0.3%) 認めた。それらの Ct 値は 37.18 (4.5 コピー) から 29.02 (2,000 コピー) であった。抗原陽性で RT-PCR 法陰性例は認めなかった。

【考察】新型コロナウイルスを院内に持ち込まないようにスクリーニング検査を導入したことで院内感染対策の効果を認めた。新型コロナウイルスが終息するまではスクリーニング検査は継続して実施していくことが重要であると考えられる。連絡先：072-252-3561 (内線 3673)